

平成16年度第2回愛知県周産期医療協議会

議 事 要 約

日 時：平成16年11月26日（金） 午後3時から午後5時まで

場 所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：安藤委員、石川委員、石田委員、一木委員、犬塚委員、岩田委員、岡田（純）委員、
岡田（節）委員、可世木委員、小山委員、榊原委員、柴田委員、鈴木委員、高橋委員、
戸苅委員（代理）、成田委員、二村委員、森川委員、山崎委員

欠席者：浅井委員、寺澤委員、松澤委員

事務局

出席者：愛知県健康福祉部児童家庭課長、愛知県健康福祉部児童家庭課主幹（母子保健グループ）、
名古屋市健康福祉局健康部主幹（医務指導）、
名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長、名古屋第一赤十字病院第二産婦人科副部長

欠席者：

司会者：名古屋第一赤十字病院第二産婦人科副部長

議 長：安藤会長

1 安藤会長あいさつ

2 犬塚技監あいさつ

3 議事

（1）周産期協議会システムについて

ホームページの協議会紹介文について

* 救急医療とあるが、救急指定医療機関と周産期医療機関が一致していないので、周産期部門の周産期に関わる救急医療にしたらどうか。

* 周産期システムは救急医療を念頭においている。

* 周産期医療ということに最初から限定しているので、事務局案でよいと思う。

* 事務局案に変更します。

応需情報について

a. 機関別情報システムアクセス回数

* アクセス回数は状況の変化に即応しているのか。

* 情報システムがあることを知らない医療機関もある。

* 同じ状況でも毎日更新した方が、利用する側としてはよい。

* 基本的に一日一回、特に週末は更新をお願いします。

*リアルタイムの情報が必要なので、応需情報の更新をお願いします。

b. 入力協力機関

*現在は総合・地域周産期母子医療センターとコロニー中央病院です。

*情報提供してもらう医療機関が多いほうがよいと考えて、協力機関を開拓していきたい。

*初めに県下の四大学に協力をお願いしようと考えています。

*順次、協力してもらえそうな医療機関をお願いしようと考えています。

協議会・講演会・専門相談等のお知らせ、参加入力について

*ホームページ画面上から参加入力ができるようになりました。

*協議会委員と情報をメールで遣り取りしようと考えています。

*保健所、保健センター、助産師会も登録してはどうか。

*事務局から案内を出します。

専門相談入力について

*入力画面が変わるのに時間がかかる。

*希望ですがADSLに変更できないか。

*事務局と行政で話し合っしてほしい。

(2) 平成16年度愛知県周産期医療専門相談事業の報告と今後の予定について

<平成16年7月17日(土)開催 海部津島医療圏(海南病院)>

*名古屋市立大学 分娩部助教授 鈴木佳克先生による「周産期管理における最近の話題」の講演会を開催しました。

<平成16年11月23日(祝)開催 東三河北部・南部医療圏(豊橋市民病院)>

*国立成育医療センター こころの診療部部长 奥村眞紀子先生による「児童虐待への対応～予防を中心に～」の講演会を開催しました。

<今後の専門相談事業として>

*平成16年11月27日(土)尾張北部医療圏(小牧市民病院)

*平成17年3月19日(土)名古屋医療圏(名古屋第二赤十字病院)

(3) 平成16年度愛知県周産期医療調査・研究事業の中間報告について

<医療法人格医会 可世木病院院長 可世木成明>

これからの産科医療～オープン・セミオープンシステム～について

*産婦人科医会A会員にアンケートを行いました。

*産婦人科医会会員は40%から70%がオープン・セミオープンに向かうと考えています。

*8か所でパロットスタディが始まっています。

*医師不足による産婦人科医療の崩壊。

* さらに検討をします。

< あいち小児保健医療総合センター 山崎嘉久 >

地域周産期医療施設の子育て支援に対する取り組み

～特に助産師・看護師の役割について～

* 目的は県内の地域の一般医療機関（産科）・助産施設等における子育て支援への取り組みを明らかにすることです。

* 調査対象は県内の周産期医療施設等に勤務する助産師・看護師です。

* 調査結果は次回報告します。

< 名古屋大学医学部周産母子センター助教授 板倉淳夫 >

愛知県下における多胎の周産期医療に及ぼしている実態に関する調査・研究

* 調査方法は

* 高次医療施設における縦断調査

2003年に名大病院ほかで、分娩した患者とNICUに入院した患者が対象です。

* 高次医療施設における横断調査

2004年10月に名大病院ほか2003年に県内で母体搬送を受け入れた施設で、産科及び小児科（NICU）における入院患者数に占める不妊治療後妊娠の割合。

* 不妊治療に絡んだ場合、医療費はかなりの負担になっている。

* ネガティブに捉えるのではなく、少子化対策の一つとしてポジティブに捉えて欲しい。

(4) 平成16年度愛知県周産期医療研修事業の報告と今後の予定について

< 研修会 >

* 平成16年9月25日（土）栄ガスビルにて開催されました。

* 平成15年度の調査・研究の2テーマの報告がされ、活発な討議が行われました。

* 参加者は約60名でした。

< 講演会 >

* 平成16年12月11日（土）愛知県医師会館にて開催します。

* 大阪府立母子保健総合医療センター産婦人科部長 末原則幸先生による「多胎妊娠の管理と地域周産期システム」の講演会を開催します。

* 日本産婦人科医会の研修参加証を発行します。

(5) 報告事項

総合周産期母子医療センター PICU の病床数について

* 平成15年11月の共同指導で看護師・助産師が基準を満たしていないと指摘がありました。

* 努力をしましたが人員の確保が困難でした。

* PICU 9 床、NICU 1 2 床、NCU 2 4 床に変更することになりました。

* 県全体で PICU、NICU が何床必要か来年度を目処に、研究事業を活用して把握できないかと考えています。

* 事務局で検討して、第 3 回協議会の時に概要を示したいと考えています。

愛知県の母子保健の水準について

* 愛知県の母子保健の水準 都道府県・人口動態統計順位を見ると、出生率は全国 3 位の 10.0 で、平成 1 4 年度と比較すると概ね横這い状態です。

* 健やか親子 2 1 あいち計画の乳児死亡率の目標値を平成 2 2 年度においています。

* 詳細は資料 3 1 から 3 6 を参照してください。

* 平成 1 5 年度愛知県周産期母子医療センター NICU の利用実績を纏めました。

(6) その他

愛知県周産期医療協議会委員の旅費支給内規(案)について

* 日当額支給内規を変更しましたが、いかがでしょうか。

* 内規改定を承認します。

* 調査・研究は協議会委員に限らずよい研究であれば、協議会委員以外にお願いする方向で考えてもよいのでは。

* 協議会委員優先でもよいのでは。

* 協議会委員が共同研究者となれば問題ない。

* 協議会委員の意見を共同研究者を通じて反映してもらえれば、協議会委員以外でもよい。

< 次回協議会開催について >

平成 1 6 年度第 3 回愛知県周産期医療協議会を平成 1 7 年 3 月 1 8 日(金)に名古屋第一赤十字病院 第 6 会議室にて開催します。